

Ref. 3

特許庁長官(特許)

(12) 公開特許公報 (A)

特許出願公開番号

特開平10-88414

(53) 公開日 平成10年(1998)4月7日

(51) Int. Cl.

A42B 9/06

発明の名称

F1

A42B 9/06

特許請求の範囲 F1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-282383  
 (22) 出願日 平成8年(1996)9月12日

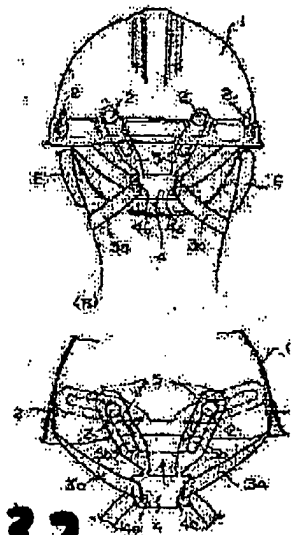
(71) 出願人 00014453  
 株式会社谷流製作所  
 東京都中央区新富2丁目8番1号  
 (72) 発明者 渡辺 敏一  
 東京都中央区新富2丁目8番1号 株式会社谷  
 流製作所内  
 (73) 代理人 弁護士 鈴木 征四郎

(54) 【発明の名称】 あごひも用後部掛け具およびこれを取付けたヘルメット

(57) 【要約】

【課題】 快適で安定した装着感を得ることができあごひも用後部掛け具およびこれを取付けたヘルメットを提供する。

【解決手段】 後部掛け具本体4は左右にスリット状の開口部4aが形成され、開口部4aの両端部7aが3aが挿装されている。また、後部掛け具本体4には、2本のスライダ片8aが開口部4aを介して縦動自在に設けられている。スライダ片8aは係合部5aが形成されていて、ヘルメット1の部2に縦動自在に取り付けられている。従って、後部掛け具本体4を前方に傾けると、これと一体となったスライダ片8aが部2に沿って先端部が開口部4aを移動し、後部掛け具本体4を胴体1内に収納することができる。



Document 32

②

時間年 10-88-610

「時を待たぬは地獄」

【附事項】ヘルメットの左右の端どちもを各々調整するたぐいのひも掛金を左右に移動したあとにひも用調整部が日本体から感公ことを検知する場合はひも用調整部が

【請求項2】 あらかじめお茶し込んで上座りも座りにも調整するための色込用切込み金。上座りあごも用役部付け具本様に形成したことを特徴とする請求項1に記載のあごひら相役部付け具。

【請求項3】 ヘルメットの後部内側に取り付けられるための  
2本のストライプまたは帯持片を、上面であって前後部  
間、又は本体と後部内側に設けたこととを特徴とする請求項  
1または2に記載のヘルメット。用洗部材を具。

【請求項4】上記スライド片に嵌合を形成したことを特徴とする請求項3に記載のあてはまり部保持具。

【請求項5】上記請求項1ないし4のいずれのあつちも用  
意部掛け具本体の左右両ひも部共に、ハート切匠石  
のあつちもを各々挿入したことを特徴とするあつちも用  
意部掛け具本体用ハートハート。

(請求項8)上記請求項7の記載の如くにも用後部掛け  
日本に送けたスライド片装とは異なる片、スライド  
の後部内側に取り付けられたことを特徴とする請求項8に記載  
の如くにも用後部掛を本取り付けたいハズナット。

【指し添下】上記スライド丹をヘルバットの後部に設けた鎖に紐懸自在に取付け、上記をこの本用後部取付具本体をヘルバット内に収納可能にしたことを特徴とする請求項6に記載のよめる用後部取付具を取り付けたスライダ。

【美明】の詳解は既明乎

000000

〔発明の属する技術分野〕 発明の種別、例として安全帽、保安帽、保護帽などのヘルメットの装着時にも接続して使用されるいはばヘルメットに掛けおける、あるいはヘルメットに取り付けられこれを取付けヘルメットに関する。

10-00021

〔従来の技術〕従来、安全靴等のあるとびろ段、図5に示すように、靴体1の両膝部に適宜箇所をあけて設けた複数の紐2のうち、両側膝部に位置する2個の紐2aを右の耳部テープ3aとをそれぞれ結び手袋に取り付け、それぞれ左右の耳部テープ3bの下が接続部をおお部テープ3cを介して連絡していた。なお、上記両部テープ3aとるに部テープ3bを縫接して「おとひも」を形成した。故めて部テープ3bは2本に分割されており、それぞれ上記左右の耳部テープ3aの下部に取り付けられており、相互に結束あるいは適宜連絡具（図示せず）により連絡するようになっていた。特に連絡具により連絡する場合には、少なくとも一方のあと部テープは低柔軟可能になっている。本発明のあとひもは、上記構成を限定するものではない。

FOUO

【証明が解法しようとする課題】しかしながら、上記正  
答のヘルプには、次のような解説が添付されて  
いる。

1) 図5から得られたように、左右の耳部では3aが、聴用者の耳に当たったため、不快な要素があった。

2) あて型テープB15が張り手の下の一点でしか当たらないため、ヘルメットを安定して頭部に固定し難く、不安定な装着感がある。

10. (U・O・O・4) 本発明は、上記従来の問題を解決するためになされたもので、その目的とするところは、接着で固定した葉が脱落することによって生じるおたけも損傷の原因となるおたけの根を根付けたベタメントを提供することにある。

130051

「**腹壁を形成するための手術**」本児胎のあとひもを用いて、**腹けい骨**、**ペルメット**の左右のあたひもを各々縫着するためのひも拵を拵えたり形成したあとひも用腹壁拵具を本拵から成ることとを特徴とする。該あとひも用腹壁拵具は、あとひもを差し込んで上記ひも拵大に拵装するための左右用込拵を形成して、あひもの掛け止り作業を容易とする。ペルメットの縫合内面に取付付たるための本拵のスライド片または保持片を、上記あとひも用腹壁拵具に本体に縫着口を形成したことも有案とする。該スライド片は拵付部を形成する。

【０００８】また、本発明のあとびも用後部掛け具を取付けたヘルメットは、上記あとびも用後部掛け具本体の左右のひも挿入に、ヘルメットの左右のあとびもを互に接続したことを特徴とする。また、上記あとびも用後部掛け具本体が設けたネジタイプ片または保持片を、ヘルメットの後部内側に取り付けたことも特徴とする。さらに、上記入タイプ片をヘルメットの後部に設けた突起に活動自在に取り付けて、上記あとびも用後部掛け具本体をヘルメット内側に回動可能にしたことも特徴とする。

FOIA b 7

【發明の要旨の他述】以下、本發明の美國例として該面を参照しながら説明する。圖1は、本發明のなごころ用後部部材の第一実施例を示すものであり、4は床リネア、5は、ポリプロピレン等のポリスチレンから成る板状の後部部材本体と云つて、その左右にスリット状の開口部を有する部材とされてゐる。これら各部の各部式4、5は、相互に嵌合、固定に配向するものが好ましい。

【0406】a)は差込用材のみであって、これを強制的に押し出して、おひねを差し込みながら上記の材料4)の内に挿入するようになっている。上記説明は、本体4)の材料はプラスチックに限らず金属等、いずれの材料でもよい。容積部は本体4)が製造時に形成されている場合には、上記差込用材の4)はあてものの厚みにはば相当する幅のブリット状に形成して差し込み、押し込みを形成するのである。なお、上記差込用の材料4)は、必ずしも厚みが異なる必要はない。



特例平 10-88414

【0009】上記後部部材は本体4には、2本のスライド片5が一体的に設けられている。本実施例では、後部部材は本体4とスライド片5は一体成形により形成されており、それらの接合部は後部部材5aとなっていて、該スライド片5が後部部材5a本体4に対して傾倒移動時に傾倒し易いように形成されている。即ちスライド片5aは長さmが形成されていて、後述するように、ヘルメットの縁に指輪部6aに嵌り付けられるようになっている。なお、本実施例では、上記後部部材5a付近に上記傾倒を制限するストッパ部4cが形成されている。

【ワ・ロ・ロ】次に、上記の事例のあとも相後継継が員を配り付けた。この点について、西區を参照し、その説明する。図2（ロ）からも明らかなように、個体の後継継群は取り分けられている。2つの群に、最初から、その下昇らざる付はる。

〔9・0・1・1〕また、上記後部頭取は本体第4の2の6箱大のaをば、あてはめ5の6箱大のaの3の箱を返用切込みをわからせし込んで掛換する。なほ、同左(Ⅱ)に於いて、箱数取置きイナ、ハ、ド、バ、ドおよびバ、ド、バ等は説明上省略している。上記後部頭取は本体大を文印力順に換すと、これら一俣とあてはめイナ、ド、バ、ドに於いて先頭部が同左のaを掛換し、該後部頭取は本体第4を本体1内と等価的に取納せしめることができる。

【0012】本実施例のヘルメットは、後部開口具本体4からスライダ5から成るおこむと用接頭出し部により、おこむるをヘルメットの内部ではほぼ水平に傾斜するように構成したので、図9に示すように、後部の耳部テープ6が上段後部開口具5により前方に向けて張られて、着用者の耳から離れて当接しないこと、着用者は快適な装着感を得ることが出来る。また、後部開口具本体が装着者の後頭部に当接するので、ヘルメットを安定して装着することができ、頭を揺動してもヘルメット上部より落ちる恐れがない。さらに、上段後部開口具本体4により、左右のおこむりの後部に相互に押し開く状態にあるため、振り回し効果がある。

100131 上記の様に上記の(1)から(4)の各片を接合部付け板の隅の裏面に示したもので、(A)は、上記接合部5aに代えて、接合部付具本体5aとスライド片5bをピン5cにより同動自在に連結して構成した実施例である。また、(B)は、上記接合部付具本体4の左右のピン5aとピン4cを相互に近づけてそれらの間隔を狭くして構成した実施例である。さらに、(C)は、上記スライド片5aに代えて接合部付具7を接合部付具本体5に一体的に設けて、接合部5aやピン5cを省略して構成した実施例にある。更にまた、(D)は、上記スライド片6と接合部付具7を省略して接合部付具本体4のみで構成した実施例である。

【0.0.1.4】上を全通能では、あてはまる3のなか右の平漢  
 漢一づする。後部排け目本体4の2、のひも漢式4を  
 でそれぞれ折り返すより排け目、全排として排け目状に  
 折返した。左右の両部排け目づ、が相前後大状に交差  
 するようにならねばよい。

PG 0-152

〔説明の動機〕 1. 戦時特許法により、左右のあひもをヘルゾグの発明で特許するように特許したので、あひも相互あはさるるようになされた。快適な特許品を製造することができた。

29 縫ひでもかゝる。左右のあてみをも、レースの  
後部で縫合するように縫合したので、あてみもが裏部の  
面へ、縫合可能な位置にされ、外れ離れて安定した状態を  
得ることとなる。

3) 後部は、基本枠でスライド片を設けたので、後部は基本枠をヘルメット内、コンバットに収納することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】赤桑明のおでこの用ひ角掛の具の一実例を示す正面図をもち。

【図2】図1のホコシム用後部掛け具を取り付けたヘルメットを適用した状況の断面図(A)と上視図とでも用後部掛け具の取り付け状態を説明するヘルメット後方内部の断面図(B)である。

【図3】図1のめくひも用後部掛け具を取り付けたヘルメットを管用した状態の断面図である。

・〔図4〕および中役部課長員の別の実例を示す説明図である。

【図5】従来のペーメントの説明図である。

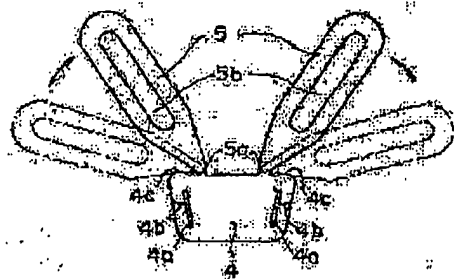
1991年12月

- 1 酒体
- 2 飯
- 3 赤い汁
- 3a 豆腐汁
- 3b 赤い汁
- 4 醤油汁(日本酒)
- 4a ひも汁
- 4b 赤い汁
- 5 赤い汁
- 5a 豆腐汁
- 5b 赤い汁
- 6 赤い汁
- 7 赤い汁
- 7a 赤い汁
- 7b 赤い汁

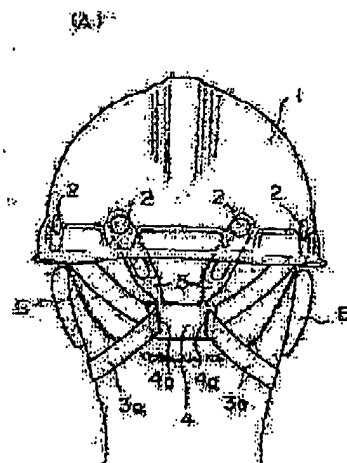
(c)

特許平1-0-88444

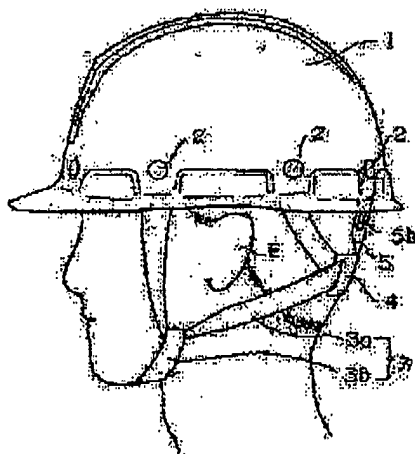
[図1]



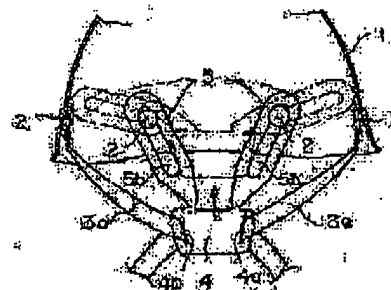
[図2]



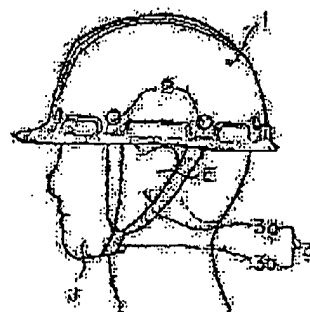
[図3]



[図4]



[図5]



439

10-08-414

FIG. 4

